

# 平成27年度 第1回宮城県産業教育審議会開催要項

宮城県教育委員会

1 日 時 平成27年10月28日(水)  
午後1時20分 から 4時まで

2 会 場 宮城県松島高等学校 会議室  
宮城県松島町高城字迎山3の5

## 3 次 第

(1) 開 会

(2) 挨拶  
宮城県産業教育審議会会長  
宮城県松島高等学校校長

(3) 授業参観

(4) 議 事

### ①審議

「観光業界に寄与する人材の育成のための観光教育について」

- ・松島高校観光科の取組説明

### ②報告

- ・今後の産業教育審議会の進め方
- ・学科別就職内定状況

(5) その他

- ・平成27年度みやぎ産業教育フェア「さんフェア宮城2015」について

## 第1回産業教育審議会

進行

委員の皆様、本日は御多用のところ御出席をいただきまして、大変ありがとうございます。開会に先立ちまして、本日の資料並びに日程の説明をさせていただきます。

まずお手元の資料の確認をお願いいたします。はじめに開催要項一枚もの、次第と裏面には資料の一覧が記載されております。続いて宮城県産業教育審議会委員名簿、裏面は座席を示しました会場図、次に一枚ものの授業参観案内とある見学教室及び順路が記載されたもの、4点目、宮城県産業教育審議会近年の審議内容と記載しております10ページの綴じ込み資料、5点目、別冊資料としまして松島高校の現状についてのカラー印刷のプレゼン資料、6点目別冊資料、平成24年3月にいただきました震災からの復興に向けた今後の専門学科・専門高校の在り方についての答申文、7点目、さんフェア宮城のカラー刷りのチラシ、最後に産業教育審議会意見用紙と記載されておりますFAX様式となります。

次に、本日の日程についてご説明いたします。配付の要項の次第をご覧ください。次第のとおり進めて参りたいと思います。終了時刻は午後4時を予定しておりますのでよろしくをお願いいたします。

なお、本審議会は、とじ込み資料の10ページのとおり情報公開条例19条に基づき、公開となりますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、ただいまから平成27年度第1回宮城県産業教育審議会を開会いたします。はじめに伊藤会長から御挨拶を頂きます。

伊藤房雄会長

皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました伊藤です。開会にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。本日お集まりの皆様には、日頃から宮城県の産業教育の振興のためにご尽力頂きましてありがとうございます。感謝申し上げます。本審議会ですが、宮城県の産業教育の振興を図るという視点から、教育委員会からの諮問に応じて調査及び審議をいたしまして、答申及び提言というような形で応えていくことを使命といたしております。本日は平成27年度の第1回目の審議会ということで、ここ松島高校さんを会場といたしまして、現地調査を開催することとしました。今年度の審議会につきましては、昨年度に引き続き平成24年3月答申の検証作業を進めていくということにしております。この点につきましては昨年度2月の本審議会におきまして農業教育と水産教育、この2つの教育の方向性について皆さんから貴重なご意見を数多く頂きました。それによって答申で示された方向性に沿って学習活動が行われていることも確認させていただきました。今年度はそれに加えて、他の産業教育の状況について、同様の検証作業を進めさせて参りたいと思います。なお、本日は松島高校さんを会場としております。高校生の日々の学習の様子を御覧頂く他、指導する先生方から学校の取組について直接話を聞く貴重な機会とも考えております。委員の皆さんには産業教育の充実に向けて、学校の取組や産業教育のあり方について忌憚のない御意見を頂ければと思います。非常に限られた時間ですが御協力をいただき、円滑な進め方と建設的な御意見を沢山だしていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

進行	続いて、本日会場となります宮城県松島高等学校 校長 村上礼子が挨拶を申し上げます。
村上礼子校長	皆さん改めましてこんにちは。ようこそ遠く松島高校までおいでいただきまして感謝申し上げます。仙台から来ると意外に距離があったのではないかと思います。施設も大変古い学校ですが、今日一日どうぞよろしく願いいたします。本校の歴史ですが、昭和23年7月に塩釜高校定時制課程松島分校として松島中学校内に設置されたのが始まりで、その後昭和32年にここ松島に宮城県松島高等学校として設立し、今年度で開校67年目となります。自律・友愛・創造の校訓の元、地域の皆様に支えられながら様々な活動に取り組んでおり、卒業生は1万人を超えております。昨年度から県内初の観光科を設置し、各学年の構成は普通科3クラス観光科2クラス編成となり、同時に普通科の教育内容を見直しました、制服も一新し新しい松島高校としてスタートいたしました。古い制服は3年生のみ着ておりまして、色が明らかに違いますので本日廊下ですれ違った際にご覧いただけるかと思います。今年度は観光科2年目を迎えて、特に観光科についてはまだまだ手探りの部分がありますが、昨年以上に取組については新しいことあるいは工夫して進んでいるところでございます。本日は観光科の授業を御覧頂き、また科の取組について御紹介申し上げる機会を与えていただきありがとうございます。つい先日学校祭が終わったばかりで生徒も多少気が抜けているかも知れませんが、ありのままを見て頂き御指導頂ければありがたく存じます。どうぞよろしくお願い致します。
進行	続きまして、本日御出席の委員の皆様につきまして、お手元の名簿順に御紹介させていただきます。工藤電機株式会社 代表取締役 引地智恵 委員でございます。
引地智恵委員	よろしくお願い致します。
進行	ただいま御挨拶を頂きました東北大学教授 伊藤房雄 委員でございます。
伊藤房雄委員	どうぞよろしくお願い致します。
進行	宮城学院女子大学教授 平本福子 委員でございます。少々遅れていらっしゃいます。東北福祉大学教授 塩村公子 委員でございます
塩村公子委員	よろしくお願い致します。
進行 浅野雅子委員	宮城県宮城広瀬高等学校長 浅野雅子委員でございます。 よろしくお願い致します。
進行	なお、間庭洋委員、及川公一委員、小野秀悦委員、菅原一博委員、本図愛実委員、

宮川耕一委員は御欠席となっております。続きまして、本日の会場となります松島高校の職員を御紹介します。

村上礼子 校長でございます。

村上礼子校長

よろしくお願いいたします。

進行

高橋俊隆 教頭でございます。

高橋俊隆教頭

よろしくお願いいたします。

進行

佐々木伸也 事務室長でございます。

佐々木伸也事務室長

よろしくお願いいたします。

進行

佐々木安弘 主幹教諭でございます。

佐々木安弘主幹教諭

よろしくお願いいたします。

進行

また、ここにはおりませんが、本日授業を提供していただくのは 大友朱美 教諭、三瓶吉人 教諭でございます。

続いて、宮城県教育委員会 高校教育課 課長 山内明樹 でございます。

高校教育課長

はい、よろしくお願ひします。

進行

以上でございます。それでは初めに、観光科の授業を御覧いただきます。配布資料に見学教室及び順路がございますので御確認ください。ここから御案内を松島高校の高橋教頭にお願ひいたします。

※2クラス の授業を参観（観光科の学校設定科目） 50分間

「地元学(1年)」，「Dream Skyward(2年)」

進行

それではこれより審議に入りますが、綴じ込み配布資料9ページの産業教育審議会規則第5条により会長が議長を務めることになっておりますので、伊藤会長に議長をお願いいたします。

伊藤房雄委員

暫時の間 議長を務めます。皆様のご協力をお願いします。

最初に、(1)の「観光業界に寄与する人材の育成のための観光教育について」です

が、平成26年度より宮城県内初の観光科を設置した松島高校観光科について、先ほどは授業を参観させていただきましたが、改めてその取組について学校現場の先生方からお話を伺った上で、各委員から御質問、御意見を頂戴していきたいと思っております。それでは、よろしく申し上げます。

佐々木安弘主  
幹教諭

観光科を担当しております、佐々木と申します。よろしく申し上げます。ここでは本校の観光科の取組について足早にはなりますが、説明させていただきます。本校の観光科は昨年度新設されまして今年2年目になります。成り立ちについてはお手元の学校要覧を御覧いただければ分かると思いますが、平成21年度から新設に向けて準備を進めて参りましたが、昨年度新設の観光科の前段として平成25年から2年間だけですが、普通科の中に3類型ということで観光類型観光ビジネスコースを新設し、今年度の3年生が最後になります。観光科のねらいとしては、地域の観光資源を学習素材として、自己の生き方やあり方を考えさせながら、将来において観光産業やそれに関連する産業・業種に携わろうとする人材の育成としております。教育目標は将来の観光のスペシャリストを多く輩出できればと考えており、指導方針は大きく3つあります。1つ目は基本的な生活習慣の確立、態度や身だしなみ、言葉遣い等の指導です。本校は生徒の半数が就職するという状況なので、特に観光科は卒業後就職することを考え基本的に指導していく中で一番大切なこととして最初にあげています。2つ目として学校内だけの指導にとどまらず、積極的に学校外に出して学習の機会を設けたいと考えております。3つ目はそういった学習の中でいろいろな人と関わり合いを持ちながら豊かな人間性というものを育てていきたいという風に考えております。

次に特色ある取組ですが、まず学校内の話になるのですが、多くの学校設定科目を設けております。この中の2科目について先ほど参観して頂きました。「地元学」と「観光基礎」という科目は1年生で実施しており、「地元学」につきましては松島を中心に周辺市町、更には県全域を対象に観光だけではなく地元根付いた産業であるとか歴史や文化そういったものをしっかりと理解する。そして郷土愛を育み宮城県の良さというもの子ども達に伝えていくということがまずひとつ目標としてあげられます。

2つ目の「観光基礎」は、観光業や観光関連機関やその役割を学びます。観光という裾野の広い分野ですが産業としての「観光」について様々なことをこの観光基礎で学び、どんな業種によっても観光と結びついていくということも理解させながら観光というものを広く、そして本当に基礎的なところを勉強していくのが1年生で実施されている学校設定科目2科目となります。2年生になりますと「観光地理」と「旅行業務」という2科目を商業科目として学びます。宮城県だけではなく、様々な地域に観光資源がありますので基本的なところを理解するという内容です。観光科をでて観光地を知らないようでは困りますので、有名などころであるかどうかは別としても観光地と呼ばれるところは全て理解させていきたいと考えております。全国を網羅することはなかなか難しいですが、できる限り伝えていきたいと考えております。それから「旅行業務」については観光産業の中の旅行業務にスポットをあて、基礎的・基本的な知識と実務的な技

術を身に付けます。旅行業務に関しては国家資格もございますのでそれに向けて基本的なところを理解させて、もし旅行業に就きたい場合には資格についても今後3年次になったら大学あるいは専門学校の先生方を講師として資格を目指す生徒への対応を補っていきたくて考えています。1, 2年生でこのような基本的なことを学び、最終的には「観光実践」という科目で宮城県の地産地消あるいは観光PRというものを考えて、自分たちで商品化・観光商品を作り上げていくということを目指して進めていくこととしています。「観光実践」に関しては現3年生の観光類型観光ビジネスコースで若干取組んでいますが本格的には来年からということになります。以上5科目が商業科で担当する内容ということになります。

その他、先ほど参観頂きました「Dream Skyward」は英語科の方で英会話を中心に進めています。グローバル社会ですので観光と言ったら当然日本だけではなく海外も視野に入れていかななくてはなりません。海外からの観光客誘致は日本においては課題の1つであって、最近1,800万人を超えもうすぐ2千万人という海外の方の訪日ものぞめるというところで、海外の方に対するおもてなしも考えて英会話も取り入れていこうということになっております。2年生においては、個人で楽しく海外旅行に行けるような基本的な英会話を学び、3年生になると「Global Good」という科目で添乗員としてお客さんを連れて海外旅行ができるような英会話を学びましょうという内容で2科目を学校設定科目として設けております。この2科目どちらにも共通していることが英会話での観光ガイド、松島観光ガイドを目指すということで進めています。今年の12月と来年1月に台湾の修学旅行生が来るのですが、本校の生徒が英語でコミュニケーションを取りながら観光ガイドをする計画になっており、これが実施されれば1つ目標がクリアできるかなと思っております。そういった形でこのような科目を設定しております。

次に特色ある取組の中でも行事等ということで、先ほど説明した指導方針のところにもありましたが、学校外にでて学習の場を外でも求めようということで、いろいろ取組んでおります。1年生の段階で、観光科についてしっかりと理解して入学してくる生徒もいれば、「観光」楽しそうだなという感覚で来る生徒もいるので、とにかく観光というものを理解して貰おうということで、まず入学式が終わりまして、オリエンテーションの1つとして開校式行っております。『ふるさと宮城再生にむけて意識を高める』ということで、震災後にできた観光科ということもあり、震災の影響もありなかなか足を運んで貰えない宮城県の観光について、子どもたちが広告塔となり宮城の観光をPRし多くのお客様に来ていただけるように進めていこうといった意識付けをしております。

1年生に入ってまず実施しているのが農業体験（田植え）です。町、農協と連携して実施しております。先ほども申しましたが観光は裾野が広い産業ですので、農業、水産業全て観光に繋がってきますので、まずは第一次産業の農業に取組んで行こうということで進めています。農業高校のように最初からしっかりとした取組は難しいのですが、田植えを体験しその後松島でとれた食材でできた食事をみんなで食べるということを行っています。松島のとれたたてのものをみんなで食べ、今度はそれを広めようという目的

になっております。次に和室作法の体験学習です。特に2年生はホテル実習を控えておりまして、おもてなしの中で作法はとても大事なところですよ。ホテルの中でも特に観光ホテルの場合は和室のところはかなり多いので和室の作法の学習は重要です。子ども達は和室の作法が分からないことが多いので、ホテル実習の事前指導の一環として本校の茶道の先生に和室（畳）の歩き方から挨拶の仕方までしっかりと指導を受け体験しています。さらにホテル実習の事前指導で、仙台のホテルの支配人会の方をお願いをしまして、仙台シティホテルの協力によりホテルとはなんぞやというところからしっかりと説明を受け、しっかりとお客様に物事を伝えるということが大事だということを学びます。そして一日しっかりと体験しながらホテルの接客マナーや仕事内容を学習し、ホテルというものをしっかりと理解していくということを実施しています。その学習が終わりますと、2年生に関しては夏休みにかけてホテル実習として1カ月住み込みで実施しております。ホテル業務の実践と、お客様だけではなく従業員の方とのコミュニケーションの取り方も気をつけ、人と人との関わりというものを学んでおります。今年は鳴子、南三陸、作並、秋保、遠刈田、鎌先、松島と7地区で計78名が1カ月間住み込みでの実習となりました。かなり厳しい環境で1カ月間取り組んで、実習へ行く前はしょげていたのですが、実習後は大人になり帰ってきて、凄くいい実習になっていると我々も見ています。これが2年生の大きな行事になっております。それと同じ時期に1年生は夏休みの2週間、松島海岸を中心とした事業所の協力をいただきインターンシップを実施しております。インターンシップはどこの学校もやっていると思いますが、大体が2～3日というところが多いようです。実際に事業所の方にお話を伺うと2～3日では何もできずお客様で終わってしまうが2週間あれば何とかなる。1週間で教え込んであと1週間で本当に実践ができるだろうということで、2週間のインターンシップを1年生の段階で行っております。この活動は2年生で実施するホテル実習の事前指導的な部分も多く含んでおります。

先ほどお話した田植え体験の稲刈りを先日行い、刈り取った米ができてきました。松島では現在ブランド米を大きく打ち出そうということで、ササニシキは『めごの米』ひとめぼれは『いろはの米』ということでブランド米として進めております。この田植えと稲刈りは本校生徒が4年前から参加させて頂いておりますが、今回初めてこのようなシールを作って頂きました。これは生徒がデザインしたイラストで、米の袋に貼り、これを地産地消として売り出そうということで農協さんと連携して取り組んでおります。本日の「地元学」の授業でも話がありましたが、観光ガイド講習を2年生が5月に行いました。観光のスペシャリストから学ぶということでバスガイドや旅行業者の添乗員の方から講習を受け実践して学ぶということも行っています。この講習を受けた2年生が1年生の観光科生徒を相手に松島を観光ガイドするというので松島町、瑞巖寺、円通院、天麟院等、観光施設の協力を得ながらガイドを行っています。上級生から下級生へ伝えるということで縦のつながりを持つということも取り入れ、その後1年生は「地元学」の授業で2年生から教わったことをまとめあげています。観光ガイド講習は午前中にガイド実習を、午後は1年生は松島を楽しむ体験ということで遊覧船体験、2年生は

座禅体験をしています。今の観光はただ見るというだけではなく、体験するということが必ず入ってきますので、そのような体験活動を自らやってみようということで実施しました。特に座禅の方は瑞巖寺さんをお願いをしまして、修行僧と同じくということで厳しくやらせて頂きかなり厳しくたたかれておりました。このようにいろいろな形で観光について、また松島のことをしっかり学んでいきます。それを今度は次の世代に伝えていこうと本校生が小学生に松島の良さについて伝える取組を去年から始め今年も行う予定です。そのことについて体験した小学生が河北新報に投書してくれました。実際大人から子どもに伝えますとなかなか記憶に残らないのですが、高校生が小学生に伝えたところ「凄く理解できた」「凄く分かりやすかった」という内容の投書でそれが本校生徒達の励みになり来年も頑張りたいと意欲も高まったところです。

また中高連携ということで、本校生徒が地元中学校の方に出向いてお互いの実施したインターンシップについて合同での報告会を行い、お互いにインターンシップの体験を語り合うという取組をしております。また、学校間交流も今年はずいぶん行いました。他県の高校生に対して、宮城県（特に松島）の歴史・文化を伝える活動として今年には宝塚東高校、山梨学院大学附属高校と高校間交流を行い、『ずんだ餅』を一緒に作り試食し、語らう時間を設けてとても喜んで頂き、次年度もこの交流会を続けていきたいと先方からお話をいただいております。また、この時期ちょうど始まっております円通院のライトアップも本校の1, 2年生がボランティアスタッフをやらせていただいております。今週の金曜日から11月23日まで行っておりますので是非おこしいただければと思います。

次にディズニーアカデミーですが、2年間にわたり「接客マナー・おもてなしの最高峰のノウハウを学ぶ」ということで、日本が誇るおもてなしの最高峰といわれるディズニーリゾートで研修をしています。生徒は学校では見られないような真剣な眼差しで一言一句聞き漏らすまいとしっかりと学んできました。私も初めて行きましたがとても充実した内容でためになるものでした。アカデミーは高校生向けですが、今年はディズニーの方から観光科ということでもっと高いレベルのプログラムを用意しますとの提案をいただき、大学や専門学校対象に行うプログラムを本校が高校生では初めて用意していただくこととなり12月にディズニーのコミュニケーションスキルを2年生が受けてくることになっております。

次に松島町の観光協会との連携で「まつの市」「海の盆」に参加しております。海の盆ですが、松島の灯籠流しは皆さんもご存知だと思いますが、震災後花火は実施していませんが灯籠流しは今も続いております。灯籠3~4千個の作成はこれまで町の方々が1週間程かけて作り上げていたそうですが、昨年本校生徒が作成し2時間で3千個作っております。町からはこの取組に対してとても期待されているところもあり、微力ながら力になっているのかなということを感じております。また、漁協との連携で牡蠣祭りにも協力しています。『牡蠣祭り IN 磯島』は運営全てを本校の生徒が行う感じになっています。司会から無料の炉端、ブース等全てにわたり町の方と一緒に取り組んでいます。昨年は2万人を超えるお客さんに来場して頂き今年も協力することになってい

佐々木安弘主  
幹教諭

ます。また、松島だけではなく仙台へ飛び出しまして『よさこい祭り』にも協力参加しております。『よさこい祭り』もかなりの数のボランティアが必要なようで、本校生徒全員でボランティアとして参加をしております。写真を見ていただくと分かるのですが、凄くいい顔をして活動しています。ボランティアは土日に参加しているのですが、楽しみながら参加していることを感じています。

最後に、観光実践発表会についてですが、観光類型の生徒が実施しております。来年度から観光科が本格的に実施しますが、自分たちが考えた観光商品をプレゼンという形で提案しています。県内の旅行会社、大学、県の観光課、観光協会等から多くの皆さんをお呼びして開催しました。昨年この発表会で提案したものを宮交観光さんから商品化しようという提案がありまして宮交観光のバスツアーを実施することができました。高校生が提案した観光商品ということで多くの方々に申込みました。単なる見てまわる観光ではなく、生徒達が教える竹細工体験や松島の食材を使った豆腐お汁粉を一緒に作り試食するといった内容でした。民放2社にも取材していただきました。このように様々な形で人と人との関わりを大事にしていきたいと考えております。

最後に映像でご覧いただきたいものがあります。昨年、東日本大震災後5月に復旧した仙石線の開通で『仙石線フェス』が3会場で催されました。その1つを本校を会場に行いました。本来であればその実行委員たる方々が全て運営をするのですが、本校においては全て生徒が運営をしました。準備段階からずっと携わり、本校のダンス部も協力し大成功で終わることができたその時の映像です。これだけ多くの方に来場していただきました。約5千枚ほどチケットが売れたそうですがそのうちのべ2千5百人の方に本校へ足を運んでいただきました。

～映像～

というところでこのような様々な取組をさせていただいております。以上で本校観光科の説明を終わります。ありがとうございました。

伊藤房雄会長

どうもありがとうございました。それではただいまの説明に対して皆さんから御質問等ありましたらお願いします。また本日頂いている資料等を含めてご質問や確認したい点がありましたらだしていただければと思います。また今の説明だけでなく、先ほど授業をしていただいた大友先生もいらしますので、きいてみたいこと等ありましたらそれも含めて出していただければと思います。

先ほど説明がありましたが、観光学科が2年目で先ほどの説明だと来年は3年生の半数くらいが就職するのではないかということでした。今までの松島高校の状況だと生徒の半分位が就職ということだったと思うのですが、来年は就職活動も含めた様々な支援がでてくると思うのですが、具体的にどのような形で就職の説明会をやっているとか、考えていくのか等、また観光学科ではどのようなところへ就職してどんな活躍をして欲しいか等学校サイドとして描いていることはあるのですか。

村上礼子校長

進路指導については佐々木がお答えします。

佐々木安弘主  
幹教諭

観光科の生徒の進路に関しては進路指導部を含め、これまでの普通科とは考え方を別として、それなりの道を作ってあげたいという思いがあり現在様々開拓しております。県の観光連盟を含め観光協会にも働きかけております。また、旅行会社へもお声がけしまして、学科と関係の深い就職先を確保したいと動いております。開拓する中で先方様より、せっかく3年間観光を学んできた生徒なので是非とも受け入れたいという話もいただいております。また、実施しているホテル実習や販売実習等の実習先から、逆にオファーをいただいているところもあります。このように就職先に関しましては幅広く確保に努めております。

伊藤房雄会長

生徒の中には観光学科を卒業し、大学を目指し観光学とか観光ビジネスをもっと学び、ただその先は観光ビジネスで働くかは分からないという子もいるでしょう。それからストレートに卒業後直ちに学校からの紹介による会社で働くという者もいるでしょう。もう一つ専門学校等に進学してさらに専門性を高めてから観光とかビジネスの世界に入りたいという者も出てくると思います。そうした時に、高校を卒業してすぐ働くのと専門学校へ進学してから働くのではどこが違ってくるのかまたこれは将来の話ですが、そういうルートが見えてきた時に、観光科としてそれに対応してどのようなカリキュラムや教え方をしたらいいのか、その辺をすでに想定されて考えていることがあればお聞きしたいです。

佐々木安弘主  
幹教諭

実際に今の2年生は就職希望の生徒がだいぶ多いのですが、進学希望もおります。進学も観光に関する学科に進みたいという生徒もいますし、そうではなく経済系、商業系に進みたいという生徒もおります。そこは他の学科も一緒だと思います。観光系の専門学校、大学に進学したい生徒に関しては、高校生ではなかなか取得できない旅行業務取扱管理者を目指す生徒が進学ということで考えている者がいます。

伊藤房雄会長

国家資格に関しては働きながらでも結構取得できますよね。その辺の指導も情報提供しながら将来どんな仕事をしたいのかによっても徐々に変わってくるかとは思いますが。他の皆さんからも御質問等いかがでしょうか。

塩村公子委員

他に全国で観光科がある高校はどのくらいあるのかということと、伊藤会長の御質問とかぶるかも知れませんが、そのような学科の要素の就職実績はどのような形になっているのか教えて頂ければと思います。

村上礼子校長

観光科として独立した学科で設置されている高等学校は、全国的には実は少なく、約10校くらいです。本校普通科の観光ビジネス類型のような普通科での類型や総合学科のようなものを含めるとその倍くらいはあります。ただ、東京から北側、特に東北地方はほとんど設置はありません。北海道のニセコ、十和田、

村上礼子校長

猪苗代あとは本校くらいです。九州にいくと多くあるのですが、それでも学科としての設置は10校程度と非常に少なくまだ珍しい学科といえます。新しいところでは来年4月から長野県の白馬高校で全国一斉募集をする予定のようです。北海道から沖縄まで日本全国どこからでもいいので入学して下さいということで生徒を募集するという特色ある学科ができるようです。このようにまだまだ学科として少ない状況なので、実践している学校に訪問するにしても宮城県の場合は非常に難しいところがあります。子どもの数が少なくなっておりますので、学科改編や統合という波の中で新しく設立するという動きもなかなかないものから難しいところがあります。

また、先ほどの佐々木の説明につけ加えますと、シティホテルのようないわゆるホテルマンについては専門学校や大学卒業をしないと正直就職が難しいという現実があります。一方、宮城県にも多くある生徒が体験実習したような温泉地のホテル等では高校を卒業したばかりの純粋な子ども達をすぐに是非欲しいという状況で、実習にいきますとその生徒にずっとうちで働いて欲しいので就職までつなげて欲しいとお声がけを頂いております。普通科のみの頃から現在も、就職半分進学半分という進路希望の構造はあまり変わらないのですが、観光科が2クラスできることによって観光科で学んだ生徒達の強みを活かして、自分たちはこんなことを3年間学んできましたとプレゼンなどをしながら大学入学に挑戦できるような、そして更に大学で学び地域に貢献できるような生徒をまずは1回生で一人でも出しましょうというのが校内の目標として考えております。なので宮城大学さんや県内の私大の皆様ともこれからもっともっと連携を取りながら進めたいと思っております。

高校教育課長

この観光の捉え方ですが、確かにこれも観光だとスライドを見て思われたと思うのですが、おそらくこのスライドを見るまではどちらかというと旅館業やホテル業を中心とした観光のイメージがあったのではないかと思います。松島高校においては、そこだけにとどまらない例えば地場産品を使って商品開発をする、これも観光であるし、また観光の中にも滞在型の観光もあれば、体験型の観光農園といった観光もあるでしょうし、様々なイベントを企画・運営するのも観光であるし、当然ガイド等もそうです。それから伝統芸能や伝統工芸を継承していくということも観光の重要な役割だと思います。このように観光を広く捉え、様々な経験をさせながらサービス業を中心とした観光業界広く全般に有意義な人材を送り出したいという考え方なのです。これがまだまだ世の中においては、観光＝旅館・ホテル業という考えがありまして、就職等においても高校生を対象にしたものはホテルや旅館のホテルマンや仲居が中心であったりする。しかし様々な体験をさせて頂く中で、事業所さんの御理解を頂き今まで高校生が入り込んでいなかったような様々な幅広い観光分野の中に高校生の就職先が少しずつ結びついて活動の場・活躍の場が広がっていけばいいなと考えています。ですから長期の

インターンシップは行っておりますが、短期なものの中でも様々な業種職種、様々な事業所で実習させて頂くことが勉強となり、それによって地域の方に、松島高校の観光科はこういうことを勉強していると分かって頂いて、それが新たな就労先になっていくということもあればと期待しているところもあります。

伊藤房雄会長

今の課長からの説明ですと、これまでの先入観を持って観光学科でこういう人材がでますということではなく、松島高校の観光科を私は卒業したというその人それが全部観光の一部分だということですね。

高校教育課長

そうです。様々な旅館・ホテルに1カ月行くということは観光というよりはサービス業全般の一番の基礎・基本の基盤となるおもてなしの部分をきちんと身につける為に行うものであります。そこにいつも就職することを念頭に置いてのことでは決してないのだということです。そのことは中学生や保護者の方にもよく御理解頂いて、松島の観光科を目指して欲しいと思います。

伊藤房雄会長

現在、松島高校には県内全域から入学しているのですか。下宿している生徒はいるのですか。

村上礼子校長

県内全域から入学はできますが、現実には通学できる範囲の生徒が入学しています。下宿している生徒はおりません。

伊藤房雄会長

他に御質問等いかがでしょう。

平本福子委員

見学させて頂きありがとうございます。授業を拝見した際は、生徒のみなさんをもっとしっかり表現をしてもいいのではないかと思うところがあったのですが、先ほどのパワーポイントでの取組説明を拝見しましたら、実際の体験活動の中では高校生らしいパワーがとても出ていました。観光分野は実業高校の中でも一番ライブ感があり、地域との関わりや生の学びがあるとつくづく感じたところです。実業高校でどこまで力をつけさせるかということが、水産高校や農業高校を拝見した時も話題になりましたが、先程の説明にもありましたように仕上げるところまでは難しいのだとすれば、どのあたりまで学習させるかということになると思います。基本として、しっかり就職できる人間教育が謳われていたのですが、専門的などころはその上でということになるのでしょうか。子どもによっては上級学校に進学する者もいれば、学んだことを活かし就職する者もいると思いますし、進みたい道がそれぞれ違うので一様に指導するという事は難しいのでしょうか。また学校設定科目については、世相を反映していると思い拝見しておりましたが、実務的などころを学校設定科目として学習していると感じました。「地元学」については1単位の半期だけの科目ということでもったいない

と思いながら拝見しました。地域を見る目を育てることがベースにあり、そこから発展させていく内容もいろいろあると思いますし、まだ様々御検討いただいている最中なのだと感じました。学校設定科目の構成はどのように考えて作成したのか教えてください。

佐々木安弘主  
幹教諭

観光科を設立する際、全国の観光科のある学校を視察し検討しました。観光科を設置している多くの学校は『観光基礎』または『観光一般』というような科目と実践的な学習として『観光実践』というような2科目を設定していましたがその2科目の中で観光を学ぶということは難しいだろうと考えました。本校ではまず地元のことを知ることが一番大切なところではないかと考え『地元学』を設定しました。また他の学校も設置している『観光一般』のような基礎科目と実践的な学びにつなげる『観光実践』は必要であると考えました。また観光を勉強していく中で旅行業については欠かせない分野であり、将来的に国家資格取得に繋がる分野として必要ではないかということで『旅行業務』という科目を、また、観光科で学ぶ生徒として日本の有名な観光地は知っておくべきだろうということで『観光地理』を設定したという経緯があります。また、これから海外の方との交流が不可欠であり英語教育は重要であるということで2科目『Dream Skyward』『Global Good』を設定しております。

平本福子委員

英語を使った実践、実習はどのような感じで進めているのですか。

佐々木安弘主  
幹教諭

さきほどの説明にもありましたが、今年は12月と1月に台湾からの修学旅行生との交流を行います。台湾も公用語が英語ではないのですが、英語を学んでいる高校生同士ということで、共通言語の英語でコミュニケーションをとる内容を計画し進めております。

伊藤房雄会長

まだ御意見はあると思いますが、意見の方はまた後ほど皆さんから頂きますので、質問があれば受け付けたいと思いますが、いかがでしょうか

引地智恵委員

質問ではないのですが、観光というとすごく幅広いイメージがあるので観光科ではどのようなことを学ぶのかと思い、本日見学に参りました。松島ということなので松島観光なのかなとは想像しておりました。先ほど校長先生のお話を伺いまして、全国の観光科のある学校はほぼ観光地にあったと思います。観光として地元のことを紹介することだと思のですが、カリキュラムの中ではホテルでの実習・研修等もあり、このことはおもてなしを学ぶということでホスピタリティ産業というと思います。このような中ではホスピタリティされた方、受け持たれた方の気持ちが理解できないとおもてなしする方もレベルがあがらないと思いますので、その両方の体験が必要ではないかと感じました。このようなサービス

引地智恵委員 業はやはり相手が人なのでそこが大切だと思います。観光地ではそこで関わってくれた相手によって凄く良かったという気持ちに繋がることも多いと思うので、観光やその中での感動、サービスに対していかに対価を貰うかということになると、やはり相手にどのようにアピールできるかということになるとと思います。そのためには、いかに人のレベルを上げるかということでカリキュラムを考えることが大切だと思います。また本物を見る目ということも大切です。伝統工芸の体験について先ほどの説明の中でもありましたが、そのようなものづくり関わる体験や見学をしたり、地元でずっと継承されているものについてももっと勉強すると、学びも広がるのではないかと感じました。

高校教育課長 まさに今のご指摘の通りで、なぜ観光地に観光学科が多いかということに繋がりますが、観光を学ぶ上で座学ももちろん必要なのですが、本物を見て本物に触れ、体験的・実践的に学ぶということがとても大切であり、そういう意味では地域に観光資源があることによって、その体験場所や実習場所が安定的に確保できるということから、松島、十和田、猪苗代等の観光地に観光科ができるということに繋がるわけです。

引地智恵委員 そのような中で、それぞれの違いというものも必要だと思います。その違いを理解して、自分達のここがいいところであるとかここが違いだということがわかるといいと思います。また芸術や音楽等幅広く本物に触れ吸収する機会がまだまだ足りないのではないかと感じました。

伊藤房雄会長 今のは御意見ですね。十分そういったものの必要性は感じられているのですが、今後カリキュラム編成の中で、検討されていくのではないかとと思います。ただ、インターンシップを1ヶ月間行うことで、人間性というか人間の豊かさということが随分広がるのだらうと先ほどの説明を聞き感じました。そのような取組が盛り込まれていることは非常によいことだと感じました。  
では質問を含め御意見をお1人ずつお願いします。

浅野雅子委員 松島高校に観光学科が設置され一生懸命頑張っていらっしゃるということは承知しておりました。観光科は大学科だと商業に属するというので、本日の授業ではタブレットを非常に巧に操りながらの内容を拝見させて頂き素晴らしいと思いました。学校設定科目の地元学では特に活用されていましたが、本校の実態をみても生徒はタブレット等の機器類を抵抗なくすぐに使いこなすのですが、教える側も生徒に負けないスキルが必要かと思うのですが先生方はどのように勉強なさって身につけられたのでしょうか。

大友朱美教諭 本日は授業を見て頂きまして、本当にありがとうございました。ご覧いただき

てお気づきになったかと思いますがタブレットについては生徒の操作等がとても早く、追いつけないところもあるのが実態です。タブレットを導入するとなった時にそれに慣れている教員がおりましたのでそこから情報を共有したり、研修に参加した内容を共有するということをしてきました。タブレットの授業を実施しそれを共有し伝達したり次に反映させていくというようにし、改めて研修の時間を設けることは日頃の学校生活の中で難しいため、日々の授業や放課後、休み時間等にいい教材があれば情報交換しながら進めています。まだまだ追いつかない状態ではありますが、だからこそ商業科目だけを教えている時よりも新しいことを次々と学べる状況にあり非常に充実して教壇に立つことができいております。

村上礼子校長

補足ですが、佐々木、大友の2人は観光科の授業を実施するにあたり半年間大学での研修を受講しており、指導者の人材養成をしております。学校設定科目は教科書もありませんので独自の教材を研修を受講してきた者が作成し、それを活用して授業を実施しています。先ほどお話がありましたように大学科は商業ですから、2人は商業の教員です。商業でこれまで簿記等を指導していた者が観光科の学校設定科目を教えておりますので、そこには非常な努力があつて現在の姿があります。現在も1名大学で研修を受けておりますが、このような体制もなかなか毎年はとれませんので、これまでのように継続して教員を育てることは難しい状況であり、今お話したとおりの教員同士で勉強しあうという現状となっております。

浅野雅子校長

よく分かりました。本日見せていただいた英語の授業では、画面内容がかなり後ろからも見えること等体感したのですが、この授業は生徒がiPadを1人1台持っていませんでしたが商業科の先生方以外の他の授業での活用はあるのですか。

大友朱美教諭

保健体育等でも活用しております。観光科の授業を担当している先生方には全員にタブレットを配布しています。科目に1台ずつ準備してありますので、どの授業でもタブレットの授業をすることができますし、生徒はどの時間でも1人1台授業で使用できるようになっています。どの科目でも授業で活用しており、英語では音声を出して発音を練習する活用方法であったり、理科の教材を提示する等活用の幅が我々教員の中でも広がっております。

高校教育課長

このようなIT機器を取り入れることは県をあげて進めており、観光科だけではなくいずれは全ての学校、全ての学科に入れたいと思っています。今日参観して感心したのは、そのIT機器を入れたことによって板書の時間や生徒が書き写す時間等において省力化が図れる部分がありますが、その生み出した時間を何に使うかが大事だということです。生徒の話し合いの時間に使ったりあるいはネット環境が繋がっていることを活用して調べ学習にしたり、そのような時間をうまく使いながら進めていることがいいところだと感じました。これまで真剣に板書や書き写していた時間がなくなり良かったとい

うだけで I T 機器を入れるのであればあまり意味がなく、それによって生み出された時間を上手に使い授業をしたというところで今日の授業はとても良かったと感じました。また、今日のような授業展開を全教科、全ての単元でできるかといえばそうではないので、教科の特性や同じ地元学の授業でも I T 機器を活用しながら展開しやすい授業もあればそうではない普通に板書をしながら進めた方がいい場合も当然あるわけです。

平本福子委員 生徒達は調べたものを何かファイルに入れているのですか。

大友朱美教諭 タブレット本体に個別で保存することもできますし、ネットワークかクラウドに保存し教員が共有で見えることもできるようにしてあります。その時々によって両方活用しています。

平本福子委員 自分が撮影してきた写真を入れたりすることもできるわけですね。

大友朱美教諭 はい、できます。先ほどの授業の中でも 1 つの班でしていましたが、私が持っている教材をその場でわけてあげるということもできるのでとても助かっています。

浅野雅子委員 もう 1 つ質問があります。長期休業中の長い期間の実習は単位認定もしているということでしょうか。カリキュラムで凸凹があるのは長期休業中等の単位認定を含めているからということで日々の時間割上は 6 時間目で終わるとのことですか。また長い期間の実習を沢山埋め込んでいるようですが、特に 2 年生で長い時間・期間の実習がある事業所だと普通高校では部活動等の運営がうまくできなくなりますが、そのような問題はないのですか。

村上礼子校長 あります。例えば夏ですが、野球部がとても忙しい時期に実習に行きます。練習もできませんし、試合当日実習と重なることもあります。できるだけ両立できるようにそのような運動部の生徒は松島のホテルを実習先にして、練習にも参加できるような体制をとる等工夫はしていますが、普段の練習で全員がそろわない日が多くなり観光科は部活と観光科の実習の両立に苦労しています。観光科の実習は、土日のイベント参加やボランティア活動もしており、部活動では練習試合が組まれているということが多々あります。現在は部活動を優先する指導をしていますが今後観光科の実習等が増えていくと、あるいはその活動が楽しくなってくるとその両立ができなくなりそれが非常に難しい問題です。松島高校では観光科に入学すると部活動はやれないということでは生徒の希望も減るでしょうし、正直なところ苦しい状況です。それからカリキュラムの増単の部分ですが、大学に進学するにしても資格取得に向けてでも 7 時間目授業を実施すると非常に簡単なのですが、そうすると部活動をする時間がなくなってしまいます。9 割以上が J R 通学なので、7 時間目まで授業を実施すると通学にも支障をきたすということで時間割は全て 6 時間で組んでいます。

伊藤房雄会長

塩村委員はいかがですか。

塩村公子委員

先ほどから観光の分野は凄く広い分野にまたがっているというお話がありました。福祉の方面からですが、高齢者の方々が今たくさん旅行に訪れてお金を落としてくれているといわれていますが、先ほど話題にでたホスピタリティということにもつながると思います。高齢者向けの観光についてまた、広い視点で街づくり等のハード面のこと等についても関連させそのような視点を育てられるよう、授業でふれていただけたらありがたいと感じました。またグローバル化についてですが、すぐ英語についてあげられますが学生をみていると英語は小さい頃からふれることが多いため、中には苦手意識ができてしまっている者も見受けられます。観光先・観光客については最近中国・韓国の方も増えていますし、苦手意識のないところで先入観なく韓国語・中国語等の外国語教育ということも考えてみてもこれからはよろしいのではないかと感じました。

伊藤房雄会長

語学について複数学ぶことは大変ではありますが、学ぶために工夫してみることはいいことかと思えます。専門の先生をみつけたりするのも大変なところですが、必ずしも教員でなくてもボランティアや大学の留学生や海外から家族できている方の奥様等時間のある方々でそのようなことに興味を持っている方は多いと思うのでそのような方法もあるのではないかと思います。

平本福子委員

土日や放課後の授業以外の活動の兼ね合いについて、なかなか大変そうですが単位認定等しているのですか。

佐々木安弘主  
幹教諭

販売実習等については科目の中で増単しています。それ以外のボランティア活動について、観光科は基本的に全員ボランティア部に所属することとしており、部活動の一貫として取組んでいます。本校はボランティア活動35時間で1単位認定しており、最大2単位まで認定していますが、昨年度は最大で124時間取組んだ生徒がおります。土日の活動になりますが生徒は楽しんで参加していると思います。学校で窓口になり、生徒に紹介しています。

平本福子委員

たくさんの活動とその調整また、生徒がしっかり取組んでくるか等いろいろ大変な部分が多いのではないですか。

佐々木安弘主  
幹教諭

大変ではありますが。生徒の取組状況については、観光科の教員がボランティア部の顧問になっているので、ボランティアではあるのですが引率等もしております。依頼の多い時だと、土日がすべて活動となる月もあります。

村上礼子校長

ちなみに佐々木はバレーボール部とボランティア部、大友はダンス部とボランティア部を担当しており、観光科教員は2つの部を担当しております。時には校長や教頭もつ

くこともあり大変ではありますが、生徒の活躍の場が増えるということで進めております。

平本福子委員

ご苦勞がとても多そうなので、持続可能な活動になるといいと感じます。

高校教育課長

教育課程の中に位置づけられた年間計画があり、その中で進められているところがいいところだと思います。増単については最近比較的柔軟に取り入れられており、1年間で35時間の活動を1単位として認めています。英語等の資格取得に関しても取得した級により増単したり柔軟にこまめに対応しております。

伊藤房雄会長

たくさんの御意見をいただきありがとうございました。お話を伺い感じたことは、ボランティア活動については土日等かなり負担となっているように感じました。もう一度原点に戻り、長続きできる方法について検討することも大切だと感じました。先生方が使命感を持って進めていることを感じましたが、卒業生や地元の方も巻き込み協力もいただき分担しながら考えていただくとよいと思います。

また、タブレットの授業に関しては全てがデジタルの世界だけで完結せずに必ずアナログタイプの体験も入れることはとてもいいことだと感じました。デジタルの世界は意外と記憶に残らないということもありますので、しっかり五感を使うことが大切だと思います。また、今後の学生の質についてですが、観光の技能検定みたいなものはあるのでしょうか。そういうものに挑戦させて、こんな資格も持っていますというように客観的にもわかるように身に付けさせることも必要かと思います。それが雇用する側でも指標として利用できるのではないかと思います。決して義務的にさせるものではなく、そのような資格を持つことで自分をPRできる指標になると思うので、普段の学習から取組むということが全体的な底上げになるのではないかと感じました。

伊藤房雄会長

まだまだ、御意見があるかもしれませんがお気付きのこと等何かありましたら事務局が準備している質問用紙に記入いただきたいと思います。ここで審議を終わらせていただいてよろしいでしょうか。

では(2)の報告に入ります。今後の産業教育審議会の進め方と学科別就職内定状況について事務局から報告をお願いします。

事務局

お手元の綴じ込み資料3ページをご覧ください。

これは平成24年3月にいただきました「震災からの復興に向けた今後の専門学科・専門高校の在り方について」の最終答申でいただいた提言1「震災後の地域復興を視野に入れた専門教育の在り方について」とその方向性を示しています。また下段提言2は「震災被害の大きい農業高校・水産系高校の再建について」のその方向性についてですがこちらは昨年度4回目の審議会で検証いただきました農業高校と水産高校での取組状況についてまとめたものです。今年度は、これから早急に専門委員会を設置し他の専門高

校・専門学科に対しても同様の調査を実施し、取組状況を確認し、課題・論点を整理し素案の作成を考えております。審議会ではその素案を下にご審議いただき委員の皆様の任期となる7月を目処に中間のご提言「改善の方向性」としておまとめいただきたいと考えております。

高校教育課長

これまで平成24年3月の最終答申の検証作業として現地調査をしてきまして、本日も現地調査をしていただいたところです。資料3ページのとおり答申を大きく2つ、専門学科全般のものと震災で特に被害の大きかった宮城農業高校、宮城水産高校、気仙沼向洋高校にわけ、それに沿って農業高校と水産高校については現地調査と検証作業を昨年度終えたところです。そのまとめたものが資料3ページの下段です。今後は専門委員会を組織し、現場の教員にもメンバーとして入っていただき、検証をもとに提言の素案作りを進める予定です。来年度の6月を目途に中間の提言をいただきたいと考えております。その後、まだ検証をしていない学科、福祉科や工業科等や今年度新設されました総合産業高校の現地調査をしていただいた上で検証をいただき、来年度末を目途に最終提言をいただくスケジュールを考えております。これは確認でございます。

伊藤房雄会長

それでは、今後の審議会の進め方については確認ということで今のご説明のとおりでよろしいでしょうか。では事務局の説明のとおりに進めていくということでもよろしくをお願いします。では次の報告「学科別就職内定状況」について事務局をお願いします。

高校教育課長

昨年度の審議会委員の先生方より、御質問や話題としてだされた内容についての参考になる基本情報としてまとめたものです。今後の審議の参考資料等になればと思います。綴じ込み資料の4ページから7ページになります。4ページは平成27年度宮城県の職業系の専門学科の設置状況一覧になります。例えば農業であれば、現在7つの高校に農業学科があり今年度入学した生徒は720名、3学年揃うと今年度学んでいる生徒は約2,100名ということがこの資料からみることが出来ます。例えば平成元年は農業を学ぶ生徒は約5千人いましたが現在は2,100名となっています。工業では当時は約7千人学んでいましたが現在は5,400人、商業においては当時は1万人を超える人数が学んでいましたが、現在は約4千人となっています。このことは専門学科に限ったことではなく、一番の理由は子どもの数が減少していることからであり、学校規模も縮小してきているということです。また入試倍率についても参考になるところで、長く定員を割る状態が続くとクラス数の削減ということになり、農業高校は一時期そのような理由で縮小されたということがあります。この資料により、現在専門学科の規模は縮小されてきているということを見ることが出来ます。5ページはその配置になっております。圏域ごとその地域産業の特性も踏まえながら配置されています。また、以前の審議会でご質問がありましたので6ページは学科別入試出願倍率になります。平成24年度から平成27年度までの4カ年分記されていますが、平成25年度本県において入試制度の改革があり、それまで推薦入試といわれたものがなくなり

前期選抜・後期選抜という入試内容となりました。どのような変化があったかというところと下段の地区別出願倍率をみていただくとわかりやすいのですが、平成24年度の出願倍率は全体では約1倍となっていますが、地区別にみると中部地区（仙台地区）の倍率は高いのですが、それ以外は全て定員割れとなっており、仙台地区の倍率が高いために全体の倍率が1倍となっていることがわかります。新入試制度導入の平成25年度以降、自己推薦型の前期選抜となってからは全ての地区で1倍を超えています。上段は学科別になっていますが、これも平成24年度は専門学科においては農業、工業、商業、水産、家庭と全て定員割れしていますが、平成25年度以降は全ての学科で1倍を超えています。自己推薦型の選抜になってから、生徒達が自分の進路や将来の就職等いろいろなことを意識しながら学校選択をするようになり、地区別をみても地元で学び、地元で就職して役に立ちたいという意識に変わってきたことがこのような結果に繋がっているとみることができるのではないかと思います。現在の職業学科別、地区別の入学状況がわかる資料となっております。

次に7ページは卒業時の状況です。平成27年3月に卒業した生徒の各学科ごとの職業別の就職希望者数と内定者数です。専門高校の生徒の3年間の学びが就職状況に結びつくかを知る材料となります。表の網掛けとなっている部分を学科に関係の深い職業とみて割合をだしています。農業科の生徒がどのくらい農業系の職業を希望しているか、またどのくらいの生徒が学科に関連した職業に内定したかをみることができます。あくまで参考資料ですが、学科ごとに学んだ分野につながる進路を選択しているかをみる材料の1つにはなるかと思えます。またこの表から職業別の充足率や学科別の内定率、そのうち県内・県外就職者の割合もみることができます。例えば、工業や水産、特に看護は県外就職者の割合が高くなっていることがわかります。県内求人が不足しているわけではないのですが、このような現状があります。地域産業を担う人材を育成するという大目標があるのですが、そういう中でいかに地元に残すか、将来、みやぎの産業界を担う人材を育成するために、今後の産業教育の在り方についてお考えをまとめていただく資料としてご活用下さい。

伊藤房雄会長

ありがとうございました。大変参考になる資料ですが、情報がたくさんつまっていますので後ほどじっくりみていただきたいと思えます。

1つ質問があるのですが、就職先が生徒の希望どおりであったのか、また雇用者からみるとどうであったのか等、卒業生に対する追跡調査のようなことは産業高校ではされているのでしょうか。

高校教育課長

産業高校に限らず、就職した生徒の追跡については一部行っております。本県の就職状況の一番の課題は定着率の低さ、いわゆる七五三といわれている早期離職者が多いことが懸案事項となっております。その中で離職者についての追跡調査をおこなっております。事業者や離職した生徒へ聞き取り調査をし実態把握等をしてはいますが、観光科を卒業した生徒がどれくらい観光業に就いたかというような追跡調査までは追いつかない

状態です。

伊藤房雄会長

今後そのようなデータもあると参考になると思います。さて本日は、委員の皆様から参考になる御意見をいろいろいただきましてありがとうございました。今後は専門委員の調査を基に、将来のみやぎの産業界を担う人材の育成について継続してご審議をいただくこととします。なお、本日、皆様方から頂戴した御意見は、議事録としてまとめていただき、事務局より、委員の皆様にお送りして確認していただきたいと思っております。以上で審議を終わらせていただきます。御協力いただきましてありがとうございました。進行を事務局へお返しいたします。

進行

議長の伊藤会長、ありがとうございました。  
それでは事務局から3点ご連絡を申し上げます。1点目ですが「さんフェア宮城2015」のチラシが渡っておりますので御覧ください。11月7日（土）10時から14時、県庁1・2階と県庁前広場、勾当台公園を会場に農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉など県内の専門高校等で学ぶ生徒が一堂に集い開催されます。キッズビジネスタウンやファッションショーなどのイベントや、高校生が育てた農産物や作品の展示・販売などを通じて、日ごろの学習成果を紹介し、専門高校の魅力を発信します。昨年度はこの宮城で全国産業教育フェアが開催され、第3回の審議会は、フェアの日に開催させていただきました。その県内版を12年ぶりに開催することとなりましたので、ぜひ生徒の活躍をご覧いただき、今後の審議会で感想やご意見をいただければと思っております。よろしく申し上げます。

2点目です。本日の審議において、発言し切れなかったことやお気づきの点がございましたら、お配りしました意見用紙にご記入の上、平成27年11月18日（水）までに、FAXまたはメールでお送りいただきますようお願いいたします。」

3点目は、次回の審議会のご案内です。来年の3月中旬の皆様のご都合のよい日に県庁を会場として、各専門高校の取組の調査結果などを基に、委員の皆様から御意見を賜りたいと考えております。以上です。どうぞよろしく願います。

進行

それでは、閉会のあいさつを高校教育課長 山内明樹 が申し上げます。

高校教育課長

本日は熱心な審議をいただき誠にありがとうございました。また会場を提供いただき観光科の取組状況について報告いただいた松島高校の皆さまにも感謝申し上げます。先程も申しましたが、今後のスケジュールとして来年度の6月に中間まとめをまたその後今後の専門学科・専門高校の在り方として最終提言をいただきたいと思っております。平成28年度にいただきます提言についてはこれまでと同様、1つは産業教育の振興と充実、今後の目指すべき姿・方向性についておまとめいただくということになります。その他もう1つ重要な役割が、今後本県の全県的な専門高校の配置、関連して学級減、更には統廃合等組織編成を考える上での1つの指針となっていくものと考えております。本日

も関連資料がありました。少子化の進行に伴い本県でも中学校卒業生数の減少等により、専門学科・専門高校においても学級減や統廃合も含めた再編が避けられない状況にあります。学級減や統廃合については地域との関わり、教育への機会均等への配慮、学校活動を維持する規模等の視点に加えて、特に専門学科の配置については産業の振興と産業人材の育成の観点、今後の社会情勢、更には将来の需給バランスにも注目しながらその上で学校として県としてどこに力を注いでいくか、このようなところを慎重に判断していかなければならないと考えております。審議委員のみなさまには非常にタイトなスケジュールの中の審議ではありますが、只今お話をさせていただいた視点も踏まえつつ、産業教育の充実・発展に向けて、それぞれの立場からの専門的な見地に立った御指導・御助言をいただくことをお願い申し上げまして閉会の挨拶といたします。本日は熱心な御審議をいただきありがとうございました。

進行

以上をもちまして、平成27年度宮城県産業教育審議会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。